



東九州支部報

第87号

公益社団法人日本山岳会東九州支部
2019年10月25日(金)発行



第18回青少年体験登山大会 久住山頂にて・令和元年9月8日(日)

も く じ

1. 支部活動		2. 個人投稿	
第18回青少年体験登山 (久住山)	2	ペンリレー(第34回)	10
山の日 記念山行 (八面山)	2	より安全な山登りのために(No, 34)	11
経読岳 (7月月例山行)	3	私の無名山ガイドブック(No, 74)	12
鷹ノ巣山 (8月月例山行)	4	3人の冒険家たち	13
岳滅鬼山 (9月月例山行)	5	星子会員「米寿」富士山登山	14
山の安全祈る日集い (九重山系)	6	谷川岳・三国山・苗場山に登って	14
第13回スズタケ枯死シカの食害調査	6	3. 支部からの報告	
第7期登山入門教室開講	7	支部合同会議報告	16
喜寿お祝い登山 (涌蓋山)	8	支部会議報告	17
第3回キャリアアップ研修山行	9	4. お知らせコーナー	17
		後記	16

第18回青少年体験登山大会

(久住山 1,786.5m)

飯田勝之(10912)

昨年は停滞する秋雨前線のため、事前に130名を超える事前の参加申込者があったが、キャンセルが相次ぎ、参加者が半減して雨天の中、猫師岳までのコースを登ったが、今年は晴天に恵まれて、爽り多い1日体験登山教室となった、第18回青少年体験登山大会であった。

9月8日(日)大分駅前出発のバス利用参加者は26名、山の勉強などをしながら牧ノ戸峠登山口へすすむ。一方牧ノ戸峠集合の参加者は定刻の8時30分までに35名が揃い、全部で61名の参加者となる。

青少年と銘打っているが、年齢には関係なく広く一般の山登りの初心者をも対象にした一日体験登山大会なので今年も、青少年は12名で中高年の参加者が過半数だ。登山口のレストハウス横の広場で開会セレモニー。加藤支部長の挨拶のあと、1日の行動予定の説明。出発前の準備体操、そして参加者の自主申告による組編成である。

『健脚組』は8名で、九州本土最高峰の中岳(1791m)まで足を延ばして久住山(1786.5m)へ、そして帰りは星生山(1762m)を經由、『元気組』は20名で登りに星生山経由で久住山へ、そして『のんびり組』は33名と多いので、二班に分け牧ノ戸峠から久住山まで往復のコースと、毎年同じ組編成と登山ルートだ。健脚組には中野、宮原両会員、元気組には井上、鹿島両会員、のんびり組は人数が多いので第1班に中島、下川両会員、第2班に園田、阿南両会員がそれぞれリーダー、サブリーダー、さらに他の支部会員適宜エスコート要因として着く。

午前9時前、健脚組が先ず出発、ついで元気組、そのあとのんびり組が続く。薄曇りで、さほど強い日射しもなく、ちょうど良い山登り日和である。みんな元気でペースも良く、ほぼ予定通りの足の運びだ。

沓掛山から見ると、長い稜線に健脚組からのんびり組の最後までの長い列が続く。薄曇りの空は柔らかな日差しで、心配していた暑さはなく、むしろ吹く風が涼すぎるほどである。

遠景はややモヤがかかって、阿蘇や祖母などの遠くの眺望は今ひとつであったが、山頂を取り巻く九重連山のやさしいなだらかな峰々の連なり、遠くに霞む由布岳や万年山、眼下に広がる久住高原の雄大な景色などに感嘆の声が聞こえる。

12時過ぎにのんびり組、健脚組、元気雲の順番で相次いで山頂に到着してきた。ついた班から逐次山頂でランチタイムだ。広い山頂のあちこちで弁当を開いて大展望を堪能しながら楽しいひと時。そして12時50分、全員集合の記念写真の撮影のあと健脚組から下山を開始した。

予定時刻の午後3時30分、ほぼ予定通りに参加者全員がけがもなく元気に牧ノ戸峠へ下山した。午後になって次第に雲が広がりだし、あやしい雲いきとなったが、最終下山組が下り終えたちょうどその頃、空からパラパラと雨粒だ。

雨を避けてレストハウスの軒先を借りて解散式で、今年の参加者は最年少が8歳(小2)で最高齢者(星子会員)が88歳と実に80年の年齢差のある登山隊であったが、みんな元気で大満足のうちに終えた一日体験登山であった。



久住山頂をバック・に久住別荘にて

支部会員参加者...星子、加藤、阿南、飯田、鹿島、木本、園田、中野、下川、井上、中島、浅野、薬師寺、渡辺(千)、土屋、若月、工藤、大渡、神田、佐藤(裕)、尾家、松村、遠江、木下、清水(道)、清水(久)、平原(瑞)、平原(健)、水本

山の日登山

ふるさとの山に登ろう!

in 中津市・八面山 659.4m

飯田勝之(10912)

国民の祝日「山の日」にちなんで、山の日制定の「山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する」の趣旨の浸透を図ることを目的として、広く一般の登山者などに参加を呼びかけて山登りの行事を実施しようと、



山の日登山 in 中津市・八面山野外音楽堂にて

4年前に立ち上げた「大分県山の日登山実行委員会」。大分県山岳連盟、日本山岳会東九州支部、大分勤労者山岳連盟、全九州アルパインガイドクラブの4団体で構成するこの組織で、山の日が施行された初年度は久住分かれて盛大に記念集会を開いたが、翌平成29年から「ふるさとの山に登ろう」をテーマにして、県下の市町村を持ち回りで、その地域の人たちが最も親しみを感じている山で、広く一般に呼びかけて実施し始めた登山会。今年は中津市の番であった。

地元中津山岳会とも相談しながら、中津市のシンボリック的存在となっている八面山で行うこととなった。

8月11日(日)朝8時過ぎ、開会セレモニーの会場となる八面山野外音楽堂に、当支部会員や、構成団体のメンバーが集まってきて会場の準備や受付の準備。そして8時30分過ぎから参加者が次々とやってきて、広い草原の音楽堂に集合してきた。受付をして、山の日のパンフなどの資料配付。この日の参加者は受け付け名簿には116名で、名簿に記名していないスタッフも入れると120名を上回る参加者である。

午前9時から開会セレモニーで加藤実行委員長(支部長)が挨拶、続いて吉野副実行委員長(県岳連会長)が登山中の注意事項などを伝えたあと、9時15分から登山を開始した。

先頭と中間と最後尾には中津山岳会員がつく。この山は広い山頂域まで舗装の車道が通じており、車で上れるが、この日は古くからある箭山神社の参道を登る。連日の酷暑の中、この日も晴天で暑かったが、照

葉樹の中は深い緑蔭でやや涼しい。約1時間あまりで箭山神社前の舗装路に出て休憩。このあと、小池を経てしょうけの鼻と呼ばれる三角点のある山頂からアンテナを経て周回するコースで、箭山神社横にある天空の展望台まで戻る。

ここで県山岳連盟が用意した参加記念品(レスキューシート)の配布があり、それぞれ弁当を開いて昼食。そのあとは流れ解散で、思い思いに下っていった。終了後の事故報告もなく、今年の山の日登山も盛会裡に終えることが出来た。

支部参加者...首藤、加藤、阿南、安東、飯田、木本、中野、久保、下川、石神、塩月、浅野、宮原、渡辺(千)、渡辺(和)、土屋、若月、唐津、松村、遠江、宮本、古谷、丸井(弘)、丸井(元)、大鶴、岩尾、水本、平原(瑞)、平原(健)

経読岳 (992.2m)

7月例会山行報告(7月27日・土)

賀来和子(会友183)

経読岳と雁股山をつなぐ稜線の間差点に位置する古峠に向け、大分駅に6時、13名が集合し車4台に乗り分けて出発。大分ICから東九州自動車道を上り、

中津ICで下りた。8時位にリーダーの田所さんと合流。予定では古峠からでしたが、経読岳からが急な下りが長く続くということで、飯田さんの提案もあり、リーダーとの話し合いで犬ヶ岳から登ることになりました。

8時30分、挨拶の後注意点を聞き登山開始。私は山行報告を頼まれたので先頭を歩くことになり、前後を確認しながらペースを合わせるのは大変でした。荒れた林道を1時間ほど歩き休憩し、再び出発、途中一人ずつしか渡れないようなコンクリの場所もあり、6月ならシャクナゲが咲きほころぶ自然歩道を抜けてブナ林道に続く笈吊峠に着いたのは10時位でした。そこでシュリンクとエイト環を使ってのロープ懸垂下降を拝見することができました。また短い時間でしか読図も教えていただきました。虫を避ながらの早めの昼食。手作りのピクルスの美味しかったこと。

12時20分、経読岳で記念撮影、列の入替えをして出発。古峠までは長い下りが続きます。最初の計画では古峠からの登山で、急な登りが続いたかと思うと、飯田さんと田所リーダーに感謝です。朝、駅で古峠から東へ約2km地点から下山に変更され、安部さんはエスケープ者収容の為、古峠まで2時間かけた。皆さんは峠でバテ気味でしたから「通行止め」は助かりました。15時10分、林道終点で待機の安部車に



経読岳山頂にて

宮原さん、久知良さんを駐車地点に運んだ16時ごろに古峠の登山口での閉会式です。今回の月例は休憩を入れて約8時間でした。暑くて疲れましたが皆さん無事に下山できて一安心でした。田所さん長崎からご苦労さまでした。

参加者…リーダー：田所歳朗、飯田勝之、飯田修三、櫻井依里、宮原照昭、後藤英文、阿南寿範、遠江洋子、神田美代子、賀来和子、伊井八千代、古野文江、久知良美登里、(エスコート安部可人)、

鷹ノ巣山 (979.2m)

8月月例山行報告 (8月24日・土)

鹿島正隆 (11546)

8月24日(土曜日)、秋雨前線が早くも九州にかかり雨が心配されたが、辛うじて雨は降らなかった。特に三ノ岳、二ノ岳には岩場があり、雨で濡れて滑るのではないかと心配された。参加者12名。6時にゆふいん道の駅に集合。4台の車に分乗し出発。途中、道の駅やまくにてトイレ休憩。薬師峠への林道入口駐車場に車3台を回送。野峠に車1台置き、登山開始。8時15分。野峠の標高は721m。国道500号は、野峠から薬師峠の稜線に沿って走っている。9時40分、国道500号に降りる分岐がある標高840mの地点に到着。野峠からここまで、岩稜の上を歩く箇所が数カ所ある。標高900mからいよいよ三ノ岳直下の登り。左に巻き、10時10分、三ノ岳の鎖の付いた岩場の登り口に到着。20mから30mくらいはあるだろうか、まずは、深呼吸して、気合いを入れて登り始める。登り上がると、やや平坦になり、眺望が開け、英彦山方面が望める。

さらにその奥が三ノ岳の頂上である。三ノ岳に至る登山路の南西側は断崖で、踏み外さないよう注意が必要。10時35分、標高990mの三ノ岳山頂に到着。記念撮影。つかの間の休憩を取って、登ってきた岩場を降下。滑り落ちないように注意しながら降りる。降下に不安な人のために、飯田さんがロープを出し、上から確保。11時20分、三ノ岳から全員降り着いた。

次に目指すは二ノ岳。その前に、三ノ岳西側の稜線でしばしの昼食。腹ごしらえして再出発。岩の斜面を登り上がり振り向けば三ノ岳の頂が見える。12時、二ノ岳の手前にある、20mほどの岩場に到着。ちぎれそうで心許ないロープが下がっている。これを、1人ずつ登り上がる。登り上がり、岩の間をすり抜けて進むと、二ノ岳の頂上950mに着くが、注意していないと頂上に気付かずに通り過ぎてしまう。登山道の脇に申し訳程度之二ノ岳頂上の標識がある。二ノ岳から、一度鞍部へ降りる。一ノ岳を南に巻いて薬師峠に抜ける分岐もある。

一ノ岳直下もかなりの急登。ロープも張られていて、それに沿って登る。登り上がり、やや傾斜が緩やかな稜線を進むと一ノ岳山頂979.2mに到着。一ノ岳山頂付近も枯れたスズタケ原野となっている。丸井夫妻は、この鷹ノ巣山が大分百山99座目。百座完登はもう間近。何時になるのか、楽しみです。

一ノ岳から薬師峠への下りも急で、途中ロープが張られており、滑らないように慎重に下山。

一ノ岳より降り着いた稜線でアクシデント。平原さんがキイロスズメバチに襲われ足に2カ所刺される。飯田さんと鹿島がポイズンリムーバーを取り出し、応急処置。阿南さんも首元に刺される。よく見ると、登山路横の木の根元の洞に巣があった。

14時、薬師峠駐車場に到着。3台に分乗して野峠まで。道の駅やまくにて解散式。

※平原さんは、鹿島の車で、伊井さん、柳瀬さんと大分市明野の牧野医院に搬送。大事に至らなくて良かった。



鷹ノ巣・一ノ塚山頂にて

参加者：リーダー・鹿島正隆、中野稔、平原瑞枝、丸井弘美、丸井元江、水本梨絵、飯田勝之、古谷耕造、遠江洋子、伊井八千代、柳瀬里子、阿南寿範

む。10分位行くと工事中で通行出来ず やむなく車を置き歩いて登山口へ向かう。

30分位進むと「岳滅鬼山」と書かれた看板がありいよいよ登山開始 10時13分登り始めて15分位で 手掘りしたような大きな穴のあいた岩があり上には法華窟ときざまれていた。ここで 昔、「修験者のきびしい修行が行われていた」と支部長より話を聞く。

つづら折りの急坂を上り尾根に出る。10時43分岳滅鬼峠に到着、水分補給後 左の尾根道を登る。尾根アルミのはしごが2カ所掛けられていて助かった。登りつめると山頂に到着11時59分

昼食後、12時30分 釈迦岳方向に向け出発、なだらかな下りを進むと 声が聞こえ始めた。釈迦岳班と合流、感激しい惜しみながら、お互いの車の鍵を交換しい 先を進む。

12時49分。 多少のアップダウンはあるものの樹林帯の中を楽しみながら歩く。

湯谷越を過ぎしばらく行くと 釈迦岳は登らないで左折して下山道に入る予定でしたが

そう時間は変わらないと考え登ることになり、山頂直下に来るとまたもや急斜面でロープが張られてあり手元、足元に注意しながら登る。山頂からの下り始めが急斜面でしたが 後は緩やかな道で無事下山15時52分(釈迦岳コースの皆さんお待たせしてすみませんでした)

集合場所のコスモスへ急いで移動する。すでに到着していた班と全員で解散式を終え帰路へ。

どのあたりで交差するのかとワクワクしたり、またどちらの山も 山頂付近が急登でロープあり、はしごありの緊張感たっぷりで楽しい山行でした。

岳滅鬼山 (1,037.0m)

9月月例山行報告(9月14日・土)

神田 美代子(16235)

9月の月例山行は 日田市と福岡県田川郡添田町との境界にある岳滅鬼山、釈迦岳縦走で大分駅を7時に出発し 日田インターを降りて左折したところのローソンで全員集合する。

総勢13名車4台、登山口を二つに分かれて登り 縦走路で交差するリーダーの企画です。

岳滅鬼山から登るコース6名 釈迦岳から登るコース7名に分かれ 各2台に分乗し班ごとに登山口へ向かう。

私は岳滅鬼峠からのコースなので 6名車2台で107号線を小鹿田方面に入り中山集落より林道を進



岳滅鬼山にて

事前の調査等、リーダーの桜井さん、サブリーダーの宮原さんありがとうございました。

参加者…リーダー：櫻井衣里、宮原照昭、阿南寿範、中野稔、石神美智子、久知良美登里、遠江洋子、柳瀬

里子、清水道枝、清水久美子、賀来和子、井伊八千代、古野文江、岩尾祐輔、水本梨絵、(エスコート安部可人)、

で始まり、参列者が順番に焼香して慰霊と安全祈願を行った。

この日の参加者は支部会員26名と、弘藏院主のほかには、支部のブログや支部会員の口コミなどで知った一般参列者も入れて37名であった。

山の安全を祈る集い

8月月例山行報告(8月10日・土)

飯田勝之(10912)

8月4日(日)、東九州支部と法華院温泉山荘との共催というかたちで実施し始めて10周年を迎える記念の「くじゅう・山の安全を祈る集い」今年も晴天に恵まれて、にぎにぎしくしめやかに執り行われた。

九州本土最高峰の中岳(1791m)から、南西方向に直線距離で400mほど離れて、中間にある御池を挟んで対峙する丘の上にある石碑の前で行われる慰霊祭と安全祈願祭である。一般登山道から離れているせいもあり、ここを訪れる人は数少ないが、この碑は今を去る89年前の1930(昭和5年)8月、記録に残るものの中では九重連山で初めての遭難事故の犠牲となった二人の若者のために遺族が建立し慰霊碑である。

碑は長年の風雨により土台が崩れて、長い間倒れたまま放置されていたが10年前、我が支部会員とその仲間達が機材などを担ぎ上げて、巨大な石碑を起こし、土台部分を修復する作業を行ったのであるが、それを記念して慰霊祭を平成20年8月8日に、法華院温泉山荘の社長であり、法華院白水寺第26台院主でもある弘藏岳久氏の読経のもとで行ったのが始まりである。

支部は翌年の定期総会でこの行事を「くじゅう・山の安全を祈る集い」として、一般登山者にも参加を呼びかけて毎年8月第一日曜日に、法華院温泉山荘との共催のもと、遭難碑前で慰霊と山の安全を祈る祭を行うことを決めたのである。

最近4年ほど毎年好天のもとで実施しているが、初回の慰霊祭からなぜか毎年この日は雨天や悪天候で、時には避難小屋の中で実施したことや、台風の来襲で、遠く離れた法華院温泉山荘の観音堂で実施したことなどもあり、遭難者の涙雨ではないか、などとささやき合ったこともある。

今年は朝から雲一つない青空で、真夏の太陽がまぶしい天気であった。午前8時前、牧ノ戸峠から登る組は、小さないくつかの団体となって出発していく。ほかの登山口から登って来たメンバーも併せて、定刻の午前11時に揃ったメンバーのもと、弘藏院主の読経



慰霊碑囲んで集合写真

支部会員参加者…加藤英彦、飯田勝之、阿南寿範、木本義雄、下川智子、塩月靖浩、浅野総一、桜井依里、渡辺千代春、渡辺和子、工藤吉子、土屋多喜子、丹生浩司、大戸崇夫、尾登憲治、神田美代子、尾家暁夫、久知良美登里、清水道枝、清水久美子、木下恵子、古谷耕造、飯田ひとみ、飯田壮真、平原瑞枝、平原健史、三浦陽子、古谷アイ子、弘藏岳大氏(ほか支部会員外:5名)

第13回スズタケ枯死とシカの食害調査(10月5日・土)

阿南寿範(9169)

去る10月5日(土)、晴天の下、スズタケ枯死とシカの食害調査(年2回実施)の秋の調査が行われた。この調査は大分県植物研究会と日本山岳会東九州支部のメンバーによる合同調査である。祖母山系では稜線伝いに群生していたスズタケが、近年枯れはじめ白骨化し、共存関係にあったブナの木やミズナラの木等の高木樹も環境の変化が、枯れ始めている。緑深い調和のとれた美しい生態系をなしていたが、遠望のきく縦走路となって来ている。

調査メンバーは、朝7時に「道の駅 原尻の滝」集合。本日は、山岳会7名、研究会6名、計13名であ

った。5台の車で登山口の尾平トンネル(宮崎県側)に向かった。登山口に向かう道路は主要の県道でありながら狭く、途中木材を運ぶための大型けん引付トラックに追いついた。トラックは道路幅一杯に走り、のろのろとその後についていたが、親切な若い運転手、カーブの広い処で道を譲ってくれた。

登山口に着くと早速調査内容の確認と班分けを行った。調査は今年6月と同じ要領(定点観測組と稜線の樹木の食害状況調査組)である。私は6月の調査に引き続き食害状況調査を担当することになった。トンネル登山口から稜線まで約30分、急登で尾平越で全員集合するのを待ち出発。

ここから食害状況調査は始まった。稜線登山道が県境で大分県側と宮崎県側それぞれ約10m程度の範囲の、シカによる樹木の食害(皮剥ぎ)の調査である。



シカの食害(皮剥ぎ)調査

何時もより少ないメンバー4名で、稜線付近の食害木を見つけカウントテープを張り記録係が記録帳に記録を残した。確認した食害は6月の調査では稜線全般的であり偏りはなかったものの、今回は丸山以东から定点観測値まで多く、多少偏りがあるように思えた。定点観測地点のタケ成長調査も柵の外と中では成長の度合いが明らかに違い人背丈位に成長、小人数なため



定点観測地点(成長度)調

一人何役もこなしながらトレンチ調査をしていた。食害状況調査の方が早く調査終わり、タケ成長調査終了を待った。結局、昼食となったのは午後2時を回ろうとしていた。昼食終了後、午後2時40分定点調査地点を後に復路を帰った。

今のところ、タケの枯れる状況がブナやミスナラに直接影響があるかどうかは分からないが、美しい調和のとれた状況が減っていくには忍びがたい。原因究明のために今後とも末長く調査に協力したい。

東九州支部参加者・・・加藤英彦、飯田勝之、宮原照昭、井上高明、石川洋佑、遠江洋子、阿南寿範

第7期登山教室開講

実践講座は飛岳・鍋山

飯田勝之(10912)

今年で7期目を迎える東九州支部主催の登山入門教室。山登りの初心者を対象にして、平成24年に「トレッキング入門講座」として実施し、翌年からは「登山入門教室」と改名して以来続けてきたこの初心者向けの登山教室。これまでに延べ168名が受講しており、その中からは本会の会員に10名、準会員に5名、会友には43名が加入し、合計58名が当支部の山仲間となっている

今年は受講者が少なく11名で開講。9月12日(水)午後6時40分から開講式で支部長の開講あいさつと、オリエンテーションがあり、早速初日の座学講座を実施した。「安全で楽しい山の登り方の計画から実践まで」と題して講師は安東桂三会員。続いて「山で必要な道具や装備の上手な選び方、上手な使い方」で講師は阿南寿範会員。

第二回目の座学講座は9月26日(水)午後7時から、「山の地図や磁石の使い方、地形の見方、山の天候や気象について」で講師は飯田勝之会員。次は「山で起きるけがや病気や気象変化や動植物などいろいろなアクシデントについての知識と備え」で講師は去年に続いて看護師で山岳ファーストエイド、プロバイダーの宮本陽子氏の計2回2日間、4時間4講座の座学講座を実施した。

第3回以降は実戦講座で、初回の実戦講座は10月6日(日)福万山で「近な低山に登りながら、山登りの歩き方や、登り方、登山道の見分け方、地図や磁石

の使い方など、山登りの初歩的体験」を行う予定であった。しかし当日は雨霧の中、午前9時に登山口のスポーツセンター駐車場に受講者は8名集合したが、何と最近この福万山の斜面が太陽熱発電の業者に買い占められて立ち入り禁止になっているとのことである。

急遽場所を変更で、まずは日出生台にある高陣ヶ尾へ行って、地図と磁石の使い方の実地研修。そして場所を変えて近くにある飛岳へ、初心者向けの実践登山となった。

登山口で、登る時と下る時の靴のひもの結び方、ストックの使い方などの勉強。地図に無いわずかな踏みあとをたどりながら、絶えずルート検証、現在地確認の練習、雨に濡れた滑りやすい急斜面の登り方、下り方など・・・狭い小さな山頂で昼食。雨も上がり、晴れ間も見えたが、間近に見える由布岳山頂は深い霧に覆われたままであった。



飛岳山頂にて

2回目の実践講座は「少しきつめの山道を体験しながら、安全で楽しい山登りの仕方を体験」で鹿嵐山の予定であった。しかし雨続きの昨今、雄岳から地蔵峠への急な下り道は初心者には危険で、昨年の講座でも落石があったことなどを考慮して、役員会で検討して、別府市郊外の鍋山尾根で実施することとなった。ウサギ落としのルートを通らずに尾根の周回ルートを使えば、全くマイナーな道であるが、さほど危険な場所もなく、登山者もなく、ゆっくりと研修しながら歩くには最適のコースといえる。

10月27日(日)8時30分に明礬温泉に集合して、鍋山下の草原に駐車。ここでコース説明、地図と磁石で現在地確認の勉強、隊列を組んで上り下りするときの間隔やストックの使い方など歩くときの注意事項などミーティング。この日の参加者は8名で男子4名、女子4名の2範囲分かれて出発する。

鍋山の湯の横から尾根道へ。心地よい尾根道登りから次第に急になり、ちょっと急な斜面への練習だ。木の枝や根につかまりながら、時おり悲鳴を上げながら

登るのは20分余り。後はまた木立の中の尾根道のぼり、塚原越で昼食休憩。

そのあと、伽藍岳中腹を通る十字原へ至る古い稜線道を進み、途中から鍋山尾根へと入る。尾根の林を抜けると大展望で、歓声上がる。しかし最後はちょっとスリルのある鍋山防火帯の急斜面下りでフィナーレ。もちろんみんな初めてのコースで、登山者の多い、普通の登山とは全く違った山道歩きで、参加者は目を輝かせて1日の初体験を喜んでた。



鍋山山頂にて

実践講座支部会員エスコート参加者

第1回：飯田、中野、浅野、宮原、若月

第2回：飯田、阿南、中野、桜井、宮原、佐藤(裕)

喜寿お祝い登山 (10月13日)

涌蓋山

宮原照昭(16169)

令和元年の喜寿お祝い登山会が、9月23日に行われるところ天候が悪くそして10月12日・13日の予定の韓国登山が急に中止になり、10月13日

(日)に決まり涌蓋山で行いました。今年1月1日から12月31日までに喜寿を迎える支部会員は、加藤英彦・石川洋祐・塩月靖浩の3人である。当日8時30分に飯田高原農協ドライブインに集合した参加者は、該当者3名入れて総勢33名で、地蔵原・ひぜん湯・一目山の3コースでそれぞれ別れる。地蔵原コースは9名でひぜん湯コースは11名・一目山コースは13名に分かれ車で移動し私は、地蔵原登山口に一般車通行止めに車を止めてクサリをまたいで9時5分出

発した。最初は林道を歩く。この日は天候が良く、木陰で日が当らく気持ち良い他のコースより選ばなくてよかった。林道を左に曲がって100m行くとふたたび登山道になりそして、再び林道を30m程で右折して登山道を登って行く。傾斜度をどんどん増して杉林を抜け自然度に入りそれから急登が1時間位続き、樹林帯を抜け頂上が見えてきた。しばらくすると頂上だ。地蔵原コースが先に着く。直ぐに一目山コースそしてひぜん湯コースで全員着く。すぐにシャンパンで小さなコップで乾杯し、記念写真を撮り昼食、12時30分過ぎに各々三コースに分かれ下山する。車で、祝賀の懇親会の13名が、くじゅうヒュツテに集合し風呂に入り後から来た4名入れて17名で賑やかに夜遅くまで宴が続いた。



喜寿お祝い登山・涌蓋山にて

喜寿お祝い対象者

(加藤英彦・石川洋祐・塩月靖浩)

参加者泊り(中島・木本・飯田(修)・薬師寺・宮原・吉田・秋吉・工藤・土屋・神田・阿部・遠江・石神・若月)日帰り(飯田(勝)・阿南・久保・

櫻井・尾家・河野・平原夫婦・大前・古谷夫婦・下川・三浦・井伊・木下・長野・古野・藤澤) 総人数37名

第3回キャリアアップ研修山行 報告

(祖母山大谷川スズコヤ沢)

安東桂三(9193)・鹿島正隆(11545)

【大谷川】大分県を代表する一番の河川は大野川。その源流となる山は、日本百名山の祖母山。大分市鶴崎の別府湾より、遡り、豊後大野市、竹田市岡城址、南側の石垣をさかのぼり、白水の滝付近で、牧戸川・大谷川と名を変える。大谷川は熊本県の東高森の津留から、五ヶ所高原で宮崎県へ入り、祖母山の北谷登山口から、祖母山頂へと登り上がる。大分県一の大野川の最初の一滴は、祖母山の宮崎県側となっている。(安)



源流の標柱

(かつては建設省の標柱があったと記憶するか)

【研修会】誰でも(山を志す者は)、山の危険性を理解し、もし何かアクシデントに遭ったら、その被害を最小限に思う。が、危険とは、安全とはを理解するためには、天気の良い日ばかり登り、しっかりと登山道の整備されたコースばかり登り、連れられ登山ばかりしてたら、理解しないまま終わってしまう。それはそれで良いかもしれないが、山は自然であり、人知の及ばないことが、もし起これば、大変な被害を被ってしまう。そのようなことにならないように、山の技術書を読み、人の行動記録から学習し、実地の研修にてレベルアップすることが、必要と信ずる。今回、初心者向けの沢を対象として、誰でも(沢を知らない会員でも)参加でき、沢から祖母山に登り上がる(真の)楽しさを得たいと計画した。(安)

【コースタイム】10/5 一の鳥居駐車場でキャンプ
 (一の鳥居から、林道は通行止め、林道工事中
 11/30には開通予定) 10/6 一の鳥居駐車場
 (6:28) ~北谷登山口(6:52) ~入渓地(7:
 14~25) ~二俣(8:45) ~縦走路(10:35) ~
 祖母山頂(10:50~11:10) ~一の鳥居駐車場
 (13:00)

【キャリアアップ研修報告書】鹿島正隆(11546)
 令和元年10月6日(日) スズコヤ沢

沢登りの極意は、「喫水線上を歩く」と習った。本谷
 と北谷の出合から入渓谷。1時間半後、本日の核心部
 の滝に到着。ロープは出さずに登攀。もし、ロープを
 使っていれば、支点はどこに取っていたか。2段の滝
 になっているが、2段目は問題ない。1段目の支点は
 中間点と上部に2カ所とれたか。今回はハーケン、ハ
 ンマー持参。最後、稜線への登り上がりは、左岸尾根
 への登り上がりと考えていたが、あえて右岸の岩稜基
 部まで登り、右ヘトラバース。よく見ると岩上には
 梯子が架かっていた。沢登も今年度4回目。比較的、
 易しい沢登であった。水に浸かっても膝下。泳いで
 渡る淵も無ければ、大滝もなく、巻くこともなかつ
 た。入渓して20分後、堰堤があり、右岸から巻いた

箇所がある。6月のサマン谷は寒かったので、防寒対
 策で、下沢用アンダーシャツにしたが、今回はこれで
 十分だった。



【参加してね】誰でも、レベルアップは必要と思う
 し、仲間が、山でアクシデントに遭うのはつらい。ぜ
 ひ、次回は、多くの会員の参加を願っています。(安)

個人投稿

ペンリレー ・第34回

「私と山と東九州支部との関わり」

井上 高明(14737)

今年度凶らずも支部役員の一になりました。不思議に思われた
 方も多いでしょうが、支部活動にほとんど参加しておらず、ピク
 リしたのは私です。山に登り始めたのは40年余り前、先輩に連れ
 て行かれた傾山が最初です。山頂までは行けませんでした。紅葉
 が美しく「山はいいなあ」と思いました。以来、淡く長く続けてい
 ます。専ら県内の山に単独あるいは数人で登り、山頂で焼肉やそう
 めん・すいか等を食べて下山する、いわゆる「なんちゃって登山」
 を自認しています。なお、最近の山行は全体的に少なく、ここ3年
 間で一番たくさん登った山は高崎山で10回余りです。内訳は山開
 きや散策案内の下見と本番等です。次に多いのは霊山・本宮山と殆
 ど大分市内で、高崎山も含めて「登る」というより、「歩く、入る」感覚です。

日本山岳会に入会したのは9年前です。その前の年に当時の梅木支部長にお願いをしたのがきっかけで
 す。東九州支部との関わりは「大分百山」を知って登っていたのでもう少し前ですが、ペンリレーに何を
 書こうかと考えていた時に、39年前(1980年)に僅かな接点があったことを思い出しました。

それは、来年が当支部創立60周年で諸行事を計画中ですが、39年前の創立20周年の時です。記念
 講演があると知人が西さんから誘われ、私も行きました。講師が今西錦司氏と川喜田二郎氏と名前だけは
 知った方だったので参加しましたが、講演の内容は覚えていません。



翌日(?)には宮崎・熊本県境付近の民宿に泊まり、次の日に今西博士と20~30人ぐらいで向坂山と白岩山に登山した記憶があります。今思えば非常に貴重な体験です。(※古い記憶のため間違いがあるかもしれない。誤りを教えていただくと幸いです)

ところで、「山登りはどこに登ったからではなく、どう登ったか」みたいなことを見聞きしたことがあります。これは結果だけでなく経過も大事にしようとの考えだと思います。ルート・メンバー・季節・時間(時刻)・天候等に加え、調査・研究・各種ボランティアなどいろんな登り方があって当然です。自分と山との関わり方を常々考えているものの、先ずは登山回数を今より少しでも増やすことだろう。

次回ペンリレーは、浅野総一さんをお願いしています。お楽しみに!

より安全な登山のために

NO34

『地図に表現されない隠れ沢』

安東 桂三 (9193)

国土地理院の地形図(1/25000図)は、登山の必須装備だが、この頃は、山に持参しない登山者が、多い。多いと決めつけて良いかどうかは、データがないので、決めつけられないが、私は、多いと思う。

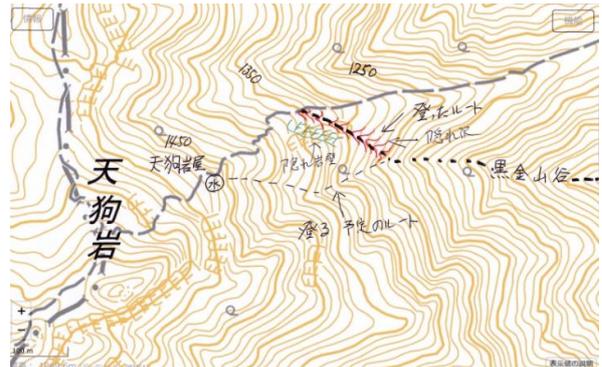
1/25000図は、必須と言ったが、この地図にも、詳細が掲載されているとは、限らない。日本全土を人力で、調べているわけではなく、航空写真などのデータを基に作図している。小さな沢や、等高線内のピークは、表記されない。表記されない隠れたピークなどは、読図が得意な人には常識だ。

滝については、国土地理院の定義では、落差5m以上で、常に水が流れているものを言う。ただ、落差5m以上のすべての滝が記載されているわけではなく、有名な滝、好目標の滝のみが表記されている。もしすべての滝を表記したら、祖母嶺山群の大分県側は、滝記号だらけになってしまう。私は、クライミングも少しはするので、地形図の「岩」記号、「がけ」記号は、興味深くいつも気にしている。本年は、数度、地形図と真剣にニラメッコすることがあった。(いつも、地図は、よく見ているが)

数度のうち、二度は、JAC東九州支部研修山行。この時は、(地図を信用し)進むべき方向を推察するのに、ニラメッコした。田所会員の『国土地理院の地形図(1/25000図)の主曲線(等高線のひとつ)の間隔が1ミリより狭ければ、必ず岩がある』の意見には感心させられた。

5月11日、新百姓山のコウザキ谷に沢登りに行ったとき、その谷の西側の尾根は、『地形図から判断し、下れる』と下ったが、岩尾根であり急峻で苦労した。尾根上には岩表記、がけ表記もなく、楽に下れると思ったが、苦労し、地図とニラメッコした。

8月9日、祖母山の黒金山谷に沢登りに行ったときは、詰め(詰め:沢登りの最後の登りを言う)で、地形図に表記されない沢を登ってしまった。この黒金山沢については、支部報『より安全な登山のためにNo24 祖母山 黒金山尾根』に詳細を書いている。多くの登山者が道迷いし、この黒金山沢を下っているので、一度、登ってみようと思っていた。川上本谷から、黒金山沢に入り、いくつかの分岐も間違わずに、詰めに近い。二俣で、左俣はゴルジュ、右俣は、

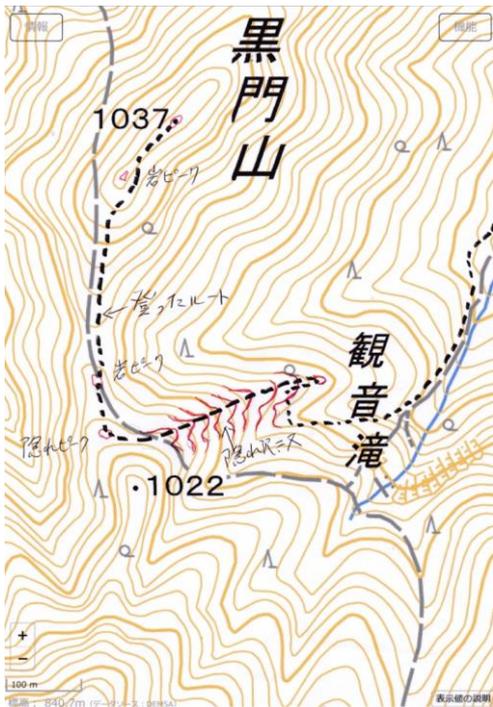


登山道まで抜けられそうな沢。標高は予定高度より低い、顕著な沢で、地形図には表記されていないが、進んだ。その標高には、地形図から岩壁が想像されたが、この沢以外に尾根上の登山道に出る選択はなさそうだと判断したのであった。岩壁に遮られるかも知れないという不安と、地形図に表記されない沢を登る不安があったが、登山道の標高1350m付近に登りあがった。目標は、天狗の水場(標高1470m付近)だったが、残念ながら目的を達成出来なかつた。地形図に表記されない沢があるのかと、ただ単に思った。

9月12日、藤河内の黒門山に登りにいった。観音滝から登ることにした。地形図には、徒歩道記号があるが、それは、古い道が記載されているだけで、廃道化していると推察。(現に、木山内岳に登る実際のルートと地形図の徒歩道は、少し違っている)

ルートは地形図の観音滝と書かれている『観』の字の緩やかな尾根を登り、1022mピークから、黒門山に登ると基本計画。『音』の字の沢を適当なところまで登り、『観』の尾根に取り付けばと思うが、『音』沢は、ガラガラして登りにくいので、少し右岸(右岸:上流側から下流を見て右側を言う)を登ることにした。そして川床に降りると二俣、地形図では、表記されない沢が存在。その沢を越えて『観』尾根を登るが、緩やかは部分と急な部分が混在し、隠れピークもあり、最終的に、1022mピークの北北西の隠れピークに登り上がった。そこから黒門山を往復した。この時も、地形図に表記されない沢があるのかと思い、その表記されない沢の影響で、緩やかな尾根が、少し痩せ尾根かと思った。

ただ、気になることは、スマホなどの各アプリ(GPS機能)は、国土地理院のデータが基になっているので、記載されないものは、もちろん各アプリには、繁栄されない。それは、そのアプリを信用しているユーザー(登山者)には、影響を与えるかなあ。負の影響がなければと思った。



祖母傾・大崩などは、原生林に覆われ、航空調査では、詳細が分からないのは、仕方なく、限界。少なくとも、アプリユーザーは、それを承知で。

私も過去に、いくつかのアプリを参考にしたこともあるが、基本は紙データ(1/25000

図)と国土地理院地図アプリの『国土地図』。アナログ人間なので、頭は柔らかく、かつ頑固に、地図と二ラメッコ。国土地図も、安心のために。

別紙：国土地理院地形図 1/25000 図 祖母山(黒金山谷)、木浦鉱山(黒門山)

私の無名山ガイドブック(第74回)
西平(529.8m)・赤石(577.5m)・丸岩(320.5m)

飯田勝之 (10912)

今回は佐伯市本匠にある小ピークを三つ紹介しよう。この付近の山は、御多分に漏れずほとんどが人工林となっているが、稜線の一部と山頂部には自然林が残されている。それらを訪ねて名もないピークを訪れるのも良いだろう。

西平

北川の上流とその支流の市園川、番匠川上流とその支流の上津川に挟まれた、酒利岳を盟主とする山塊の東の端にあるところに、ここに紹介する三つのピークを連ねる峰がある。北は西平、南は赤石という点名のある4等三角点があり、中央に615mの標高点がある。この三つをつないで歩くのだ。

県道三重弥生線の小鶴橋から南に谷沿いに入る林道を進み、約1.5kmで谷から離れて林道がシグザグ上りとなる。谷の詰めまでは普通車でも可能。県道から約2.8kmで右カーブの小さな掘り割りを過ぎて道は急な登りから緩い登りとなる。その掘割が西平へのとりつき点だ。東にわずかに稜線状になっている上を進めば、緩い登りの先の小ピークがあり、林道から100m足らずで登りつく。狭い山頂の中央に4等三角点がある。東側の展望が開けて、上津川を挟んだ東の山並みが見渡せる。まわりはヒノキの林の中で、稜線にだけカシ、アセビ、ヒシャカキ、ツバキ、ヤブニッケイなどが見られる。

参考タイム...谷の詰め～30分～峠～5分～西平

赤石

西平から一旦下の林道まで下り、林道はほぼ水平に西に延びており深いカヤに覆われている。掘割から反対(西)の稜線に取り付いて、檜の中の稜線を登っていく。10分余り登ると小さなピークで、そこから小さく下った後、ほぼ平らな稜線歩きのと、急斜面を数分おボルトピークに達する。ここが615mの独標地点で、酒利岳の東方にあるピークの最高地点である。ここから左(南)に直角に稜線が曲がるが、注意を要するのは、登りついて直ぐ左に分岐する稜線はすぐ先の小ピークで終わるので、数十m行ったところから南に下っていくのである。

この稜線は幾度か湾曲しながら南に続くのだが、その都度小稜線が分かれるので、いつも読図しながらの歩行が必要である。少し行くと主稜線の西側は広く皆伐されて荒れており、また東の稜線直下には荒れた林道が続いているが、稜線の林の中を歩く方がよい。独標地点から15分余りで左側が自然林となり、そして登りがはじまる。やや急な、大きな露岩の多い斜面を登りつめると岩の上に祠があり、その後ろに三角点がある。回りはアラカシやアセビ、ソヨゴ、ヒサカキ、ツバキなどの灌木が覆っている。

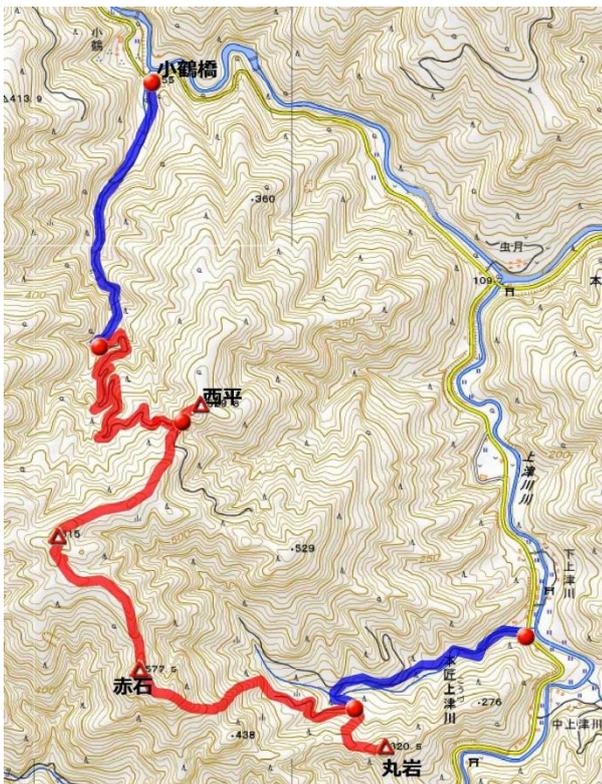
この峰だけに登るのなら、南側自然林の中を稜線伝いに登る方が良さそうだと思います。筆者は後日、この稜線の東の端にある点名「丸岩」の三角点登るときに、そのルートを通ってみた。

参考タイム...峠～30分～615m ピーク～20分～赤石

丸岩

丸岩へは、県道宇目堂ノ間線の下津川から西に入る林道栗河内線に入り、750mで林道白土線が左に分かれる。こちらに入り、谷を越えて分岐から300m足らずで大きな右カーブのところ左に荒れた作業道が分かれる三叉路がある。ここがとりつき点で、カーブの南のスギ林とクヌギ林の境を直登していく。15

分ほどの急斜面の登りで稜線上の小ピークにつき、ここより左(東)に、北はスギ林、南は照葉樹林の稜線を緩く下り、直ぐに緩い登りでほどなく山頂に着く。東西に長い稜線上のピークで真ん中に三角点がある。このルート、林道白土線を主点まで登り、前方の自然林に踏み込んで真っ直ぐに登っていけば、南に延びる主稜線に達し、それを右に登っていけば、林道から50分ほどで赤石の祠の前に達することができた。
参考タイム...林道~15分~稜線~7分~丸岩



地形図：25000分の1 千束

ング人生は終わったようだ。富士山の「歩荷」ボカ、高所の「窓ふき」で得た資金で海外ヒマラヤだけでも12年間18回、無酸素での岩場の苦闘を報告している。中学3年、千葉の「鋸山」で墜落大けが、”クライミングを止めさせるなら俺を殺せ”、以来父は黙認、母は支援する。母は脳出血で倒れても、高校卒業後泰史のヨセミテ国立公園行きを止めていない。

2. 本多勝一『六五歳ますます楽しい山山』 高校時代朝日新聞連載「エスキモー極限の民族」ルポ記事を夢中で読んだ。花形渾日記者晩年の山行隨筆だ。その中一つだけ経験あるのが「大菩薩嶺」、中里介山の「大菩薩峠」は映画では机龍之介を片岡知恵蔵や市川雷蔵が演じている。大学時代21歳は合宿で登った。三男が危篤で上京見舞いついでに小平市の二男から車を借りて64歳は塩山に向かった。再登山は途中で止めて正解、大雨となった。(興味ある記事) 日本山岳会の重鎮田部重治氏は下山中迷った「私等は今迄独立的に自分等だけの判断で登山をしたことはあまりなかった」(当時の登山様式の貴重な証言)、この遭難は1912年(大正元年)、田部は案内人に逃げられていた。”マ

3. ツチがなく焚火ができなかった”と報告、「摩擦発火法も知らぬようだ」と本多は先輩をこき下ろしている。又、めぐり歩いたり競争する人は思慮浅き、貧困なる精神と日本百名山登山者や深田久弥をもけなしている。1880(明治13)、地形図の製作開始、「5万地形図」出版までは上条嘉門次・遠山品右衛門らのガイドの世界。地図出版で貧乏人も登れて、大正時代は盛んになった『目で見る日本登山史』(山と溪谷社)

4. 服部文祥『ツンドラ・サバイバル』(みすず書房) 第一部は「サバイバル・ニッポン」、イワナ・カエル・ヘビを食って全国の渓谷を単独遡行する。第二部はNHKBS番組「厳寒の隕石湖エル・ギギトギンで幻の岩魚を釣る」ロシアの北東のツンドラ大平原の旅の最初はロシア案内人、偶然知り遭ったトナカイ遊牧民の離れ猿ミーシャとの旅がよい。焚き火・米・味噌・トナカイ解体・狩猟・釣り、本多勝一のルポに似て読ませる。終着点の厳寒の湖で危険なゴムボート釣り、幻の岩魚スモールマウスチャーが大魚の胃から出てきて番組が成立した。ディレクター、カメラマン、支援のロシア隊の人物が簡潔に書かれてよい。黒沢明の映画「デルス・ウーザラ」を彷彿させるミーシャには文祥惚れた(文祥はウーザラ尊敬)。『サバイバル!』、『サバイバル登山家』に次ぐ傑作、私も現代のロマン、服部文祥に惚れた。

(注) この3冊は平成30年猛暑の8月、県立図書館で借りて読んだ

「3人の冒険家たち」

安部可人 (10912)

1. 山野井泰史『垂直の記憶』 ソロの岩登りの天才・世界的な登山家は3年前奥多摩の自宅近くを散歩中熊に襲われた(注)。男前の山野井と付きあうには読むしかない。今も最高のパートナーの登山家妙子と仲良く暮らしているだろう。この本の最終章「ギャチュン・カン北壁」、彼37歳の壮絶な下山、昔別の本で読んで感激している、「妙子、背中を叩いてくれ。死にそうだ。くるしい。叩いてくれ」「もう目が見えないんだ」「私もさっきから見えにくくなっているの」妻妙子と2人は奇跡の生還を果たして、手足10本の指を失いソロクライミ

星子会員「米寿」富士山登山

星子貞夫 (8528)

9月27日

台風17号が日本海に吹き抜け、大陸から高気圧が東に移動し、期せずして無風、好天に恵まれて、絶好の登山日和となり現地山小屋の主も今年で初めての天気だと驚いていた。

幸運に恵まれて、実に楽しい登山となった。予定では4:00時出発であったが、3:30時に佐藤小屋を出発した。ライトをつけてゆっくりと歩きます。

小屋裏の経が岳に向けて八角堂の前を通り、森林を抜け吉田ルートを進む。森林限界を抜けるとスバルラインの終点駐車場よりの広い道に合流する。更に下りルートの道を右に分け、土留めの石垣に沿ってジグザグの道を登る。

すでに夏シーズンも過ぎ、ましてウイークデイであり、闇の中登山者のライトの灯りは一つも見えない。

山頂は工事中の為一般の登山道には通行禁止のロープが張ってある。無視して正規の吉田ルート登山道にはいる。

ゆっくりペースで歩いたので、六合目を過ぎる辺りで東の空が赤く燃え出して、やがて太陽が顔を見せる。

遠く左側に八ヶ岳連峰が特徴ある姿で際立っている。一か月前に八ヶ岳に登った仲間の二人は感慨深く眺めていた。

今年は9月15日からルート沿いの山小屋は全て閉じた。その為登山者も無く、静かな登高であった。

八合目付近で数分間、頭に異常を感じたので、腹式呼吸を繰り返して一歩で二呼吸にして気分が楽になる。九合目から更に気分が楽になり、頂上の狛犬に迎えられる12時30分に山頂を踏んだ。10年前下川幸一氏と登った時は5時間で同じコースを登ったが老いを実感した。



仲間達も皆私のペースに合わせてくれて、全く孤独を感じなかった。有難うございました。

登山中数人の若い人々に追い越されたが、一組を除いて全てヨーロッパ人であった。

頂上は工事中でブルドーザーが二台も上がって居り、売店小屋の前のロープに誘導され火口に移動して記念撮影をする。他に登山者は一人も見当たらなかった。



参加者…星子貞夫、久保洋一、土屋多喜子、工藤吉子、阿部幸子

谷川岳・三国山・苗場山を登って

宮原照昭 (15683)

8月21日から8月27日まで6泊7日で関越の山三山に登って来ました。気心知れた4人です。以下報告です。

1日目・2日目。大分は曇りの中ダイヤモンド「フェリー」で乗り神戸に着き阪神高速・名神高速・中央自動車道そして関越自動車道に乗り・水上IC降りて約1時間で谷川岳の近くの水上温泉の宿で泊り、早め就寝する

3日目。朝6時起床し風呂に入り気合を入れ朝食し出発する。(8時10分)で土合駅を過ぎロープウェイ駅に着く。朝8時40分にロープウェイを乗り9時にロープウェイ天神平駅(1,318m)に着くと又その上にリフトあり、それに乗ると天神峠駅(1,320m)見晴らし良しと、支部長だけ乗り、3人はリフト下の乗り場の横を通り抜けて、そのまま山頂に向けて登り出す。斜面を巻きながら登り、木道などで整備された登山道をしばらく歩いて行くと天神峠からの登山道に合流する。美しいブナの森で、正面は谷川岳が美しくそびえている。少し登って、熊穴沢避難小屋で支部長を待つ。こ

こから尾根に入り、段々勾配が急になり、岩場にはクサリ出てくる、谷川岳山頂部を構成する岩石は蛇紋岩を登って行く。少し行くと、天狗の溜まり場の岩場に着く。木はどんどん低くなり正面は谷川岳の山頂が見える。これから急登が続き12時過ぎに、今日泊まる「肩の小屋」に到着する。ここで昼食し、笹原を少し登ると、双耳峰である谷川岳のトマノ耳(1963, 2m)とそして奥のピークのオキノ耳(1977m)に目指し、一段下りまた登り返し(1時30分)に頂上に着く。天気の良いときは越後三山、苗場山、旭岳など見える。一の倉岳まで行かないで、その手前のクライミング



聖地まで行き、ここから引き返し肩ノ小屋に戻りチックインして部屋に落ち着きしばしの時間ゆっくりしながら夕食を待つ。泊り客は、満員でなくよく眠れそうだ。夕食を食べ段々時間がたち寝る準備するがマットが薄く寝つきが悪い。目を閉じて我慢して就寝する。

4日目。夜中に寝つきが悪くウトウトしていると(夜中3時)に隣の部屋の、大学生のグループが起きて朝食を作る為起きだしてうるさい準備して外に出ると先ほど大学生が縦走する為出発していくのを見てなぜ3時に起きたか不思議だ。{オキノ耳}に登りご来光を待っているがガスガかり展望が見えなかった。肩の小屋で、朝食を食べ直ぐに下山開始する。天神平ロープウェイまで段々下山して行くとグループ・家族達が登ってくる。その為混雑して(9時30分)に着く。三国峠トンネル手前の駐車場止め昼食を取りトンネル手前か登山開始(10時50分)。三国峠(11時40分)。峠に越えた人の碑が刻んでいる。江戸時代前からの有名人や知名人が書いていた。そこから急登で登って行く。途中から木の板の階段が続き最後に185段あり、それから少し登ると頂上に着く。

(13時)直ぐに写真を撮り下山開始。そして駐車場に(14時)過ぎに次の明日の苗場山登山のすぐ下の和田小屋に向けて出発して15時30分に着く。和田小屋は苗場山登山口が直ぐ近くに有り、条件が良い小屋だ。想でしたが谷川岳はだんだんよくなり谷川岳・三国山・苗場山を登り満足した山行になった。今度は東北地方に山を登りたいと思う。

直ぐに風呂に入りビールを飲みながら夕食を待つ。そして夕食食べ明日は最後の苗場山で終わりだ。頑張ろう!

5日目。朝6時過ぎ弁当貰い早めに出発し、登山口で登山届BOXに提出する。碓氷川コースは、スキー場のゲレンデを、真っ直ぐ登り深いブナの森に入り、木の根が露出し、木の階段が整備されている。足元は、いやらしい岩があり変化の富んだ登山道を登る。六合目を超えダケカンバの林に入り、急に視野が開けると、7時過ぎここで朝食をとる。しかしあまり食欲がない。そして登って行くと「下の芝」に着く。支部長がベンチに休憩していると「オコジョ」が近くに来ているので写真を撮るが小さくて落ちつきがなくうまく撮れない。さらに登ると「中の芝」など湿原が続く。「上の芝」過ぎ、そして小松湿原の分岐過ぎると展望が広がり、神楽ヶ峰(2,030m)のピーク着く。それから

正面に苗場山の大きく見ながら富士見坂を下ります。途中に雷清水で水を飲み、降りるとお花畑あり高山植物が多数見られた。鞍部から雲尾坂からの急登を登って行くとやっと山頂湿原に出る。広々とした木道を歩くと展望のない苗場山山頂に着く。

それから直ぐに苗場山頂ビュッテ(12時過ぎ)に着き弁当をとり、山頂の素晴らしい湿原をしばしたんのうして、登ったルートを下山するがなかなか着かない。かなりバタバタになり和田小屋には(17時過ぎ)に着く。ここから車を走らせ本日の宿を目指し、創業400年の三国峠温泉の「本陣」に17時過ぎに



着き風呂に入り夕食は、満足して就寝する。

次の日に月夜野ICから来た道のルートを飯田さんと櫻井さん二人で運転して帰る。神戸の六甲アイランドに帰着きフェリー乗り次の朝6時20分に解散する。今回の登山の中で、谷川岳の天気が良くない予

リーダー 飯田修三・加藤英彦・宮原照昭・櫻井依里

支部からの報告

令和元年度 支部合同会義報告

加藤英彦(8765)

9月28日(土)～29日(日)

場所 東京都千代田区四谷 主婦会館「プラザエフ」

出席者 全国33支部支部長、事務局長 本部長、
副会長3名、常務理事、理事他

議題 13時開会 会長挨拶

6月の総会で新たに会長に選任された古野会長の挨拶
古野会長趣旨 新たに会長となった古野です、58歳
です、私のめざす山岳会の在り方は会報「7月号」記
載されている、令和の新代にどのような登山が求めら
れているのか、若いクライマーの期待は大きい、将来
のJACを背負っていく人材を育成したい

会員数の減少をとめ会員増加の道を図りたい、準会員
制度の問題、入会のハードルを下げ会員の増加を模索
しながら諸先輩方の協力をお願いしたい、2日間会議
忌憚のない意見を、あらかじめ配布された会議資料
(2冊)に沿って会議進行される、

2) 会務報告

1、支部助成事業経過報告

2、登山教室指導者養成講習会の報告と計画

3、「山の天気ライブ授業」について

4、登山計画書提出状況と事故事例について、

提出状況の一覧表あり。東九州支部 2019年
8月まで月平均1.4件

会員のかかわった事故事例については把握されて
いない状況だ。

5、「山の日」事業委員会報告

ここで東九州が指名され取り組んでいる大分県山
の日実行委員会の状況について説明した、今年の山の
日登山の事業報告のコピーが添付されていた、4団体
にて取り組んでいる成功事例として事前に発表するよ
うに要請されていた

6、自然保護委員会報告

7、準会員制度について。

準会員より正会員への移行手続きの簡素化につい
て、東九州支部は4名の該当者。

8、公益社団法人について。

9、会計報告書と寄付金の扱いについて。

寄付金の処理についての説明を詳しくきたい

(3) 質疑応答

1、会務報告について質疑応答

助成事業について、

計画書提出について 等様々な質問事項がでた。



支部合同会議・東京・プラザエフ

2、全国の「古道踏査」事業について、

3、会員名簿について、個人情報保護法の改定に伴う
対応についてせつめいがあった。結論としては会員名
簿は作成しない。こ

(28日の会議終了、17時)

9月29日 開会9時より

1、記念事業委員会 解説重廣委員長

*組織について

*ヒマラヤキャンプについて

*グレートヒマラヤトラバース企画

*カンチエンジュンガ大展望トレッキングについ
て

*日本山岳会エヴェレスト登頂50周年について

*機関誌、登山報告書、資料映像のデジタル化

*日本、エクアドル外交関係樹立100周年交流
事業報告。

この9月1日から14日までの間に行ったエクアドル
のコトパクス山、チンボラソ山の登山報告がスライ
ド映像を交えておもしろい報告であった。

2、意見交換

1) 家族登山の全国ネットワーク構築のお願い

2) 支部アドレスを利用したネットワークについ
て

3) 旅行業法について

3、連絡事項

*年次晩餐会について

*令和2年度全国支部懇談会の開催は、宮崎支部
より説明あり

2020年5月16日(土)～17日(日)宮崎ANA
ホリデーインリゾート宮崎

山、双石山(ぼろいし) 会費2万円、

(12時 閉会)

出席 加藤英彦支部長 飯田勝之事務局長

支部会議報告

第3回役員会 8月28日(水) コンパルホール

1. 第7期登山入門教室の実施について
2. 第17回青少年体験登山大会実施について
3. 韓国蔚山支部との交流について
4. 60周年記念事業について
5. キャリアアップ研修山行について ほか

第4回役員会 10月7日(月) コンパルホール

1. 第7期登山入門教室の実施について
2. 韓国蔚山支部との交流延期について

3. 専門部事務引き継ぎのあり方について
4. 忘年登山と忘年会について
5. 支部60周年記念事業について ほか

大分県山の日登山実行委員会

10月28日(月)

1. 山の日登山 in 中津市・八面山の反省
2. 会計決算報告と精算
3. 来年の山の日取り組み
4. 山のトイレ問題について

お知らせコーナー

支部のルームについて開催状況

- 8月2日(金) 大分市西部公民館 出席者8名
9月6日(金) 大分市西部公民館 出席者名
10月4日(金) 大分市西部公民館 出席者5名

支部ルーム開催予定

- 11月 1日(金) 大分西部公民館 :18:00~21:00
12月13日(金) 大分西部公民館 18:00~21:00
1月10日(金) 大分西部公民館 18:00~21:00

月例山行のご案内

11月月例山行:御前岳・釈迦岳

日時…11月10日(日)
出発…11月10日(日)午前6時00分
集合場所…大分駅南口(上野の森口)
参加申し込み期限…11月1日(月)まで
担当リーダー…丹生浩司
参加申し込み…TEL 097-595-1385 090-1080-7623
Email hyakusho-jo-to-12.18@docomo.ne.jp

12月月例山行:忘年山行 傾山・笠松山・

天神原山

日時…12月21日(土)~22日(日)
出発…12月21日(日)午前6時00分
集合場所…大分駅南口(上野の森口)
参加申し込み等

忘年登山と忘年会のお知らせの欄を参照のこと

1月月例山行:熊渡山・カラ迫岳

日時…1月26日(日)
出発…1月26日(日)午前6時00分
集合場所…大分駅南口(上野の森口)
参加申し込み期限…1月19日(日)まで
担当リーダー…中野 稔
参加申し込み…TEL 097-543-3903 090-2712-5225
Email mr.yufu-oze@tw.drive-net.jp

2月月例山行:猿駈山

日時…2月16日(日)
出発…2月16日(日)午前6時00分
集合場所…大分駅南口(上野の森口)
参加申し込み期限…2月18日(金)まで
担当リーダー…宮原 照昭
参加申し込み…TEL 097-537-1389 090-7384-3111
Email teru-miya240619@docomo.ne.jp

3月月例山行:三国山

日時…3月15日(日)
出発…3月15日(日)午前6時00分
集合場所…大分駅南口(上野の森口)
参加申し込み期限…3月8日(日)まで
担当リーダー…井上 高明
参加申し込み…TEL 097-536-2728 080-5210-9368
Email i-tmss@oct-net.ne.jp

4月月例山行:ハナグロ山

日時…4月12日(日)
 出発…4月12日(日)午前6時00分
 集合場所…大分駅南口(上野の森口)
 参加申し込み期限…3月5日(日)まで
 担当リーダー…浅野 総一
 参加申し込み…TEL 097-536-2728 097-536-2728
 Email asanos@pod-b.ne.jp

韓国山岳会蔚山支部との交流山行

は延期に

韓国山岳会蔚山支部との交流は、2019年10月に実施の予定でしたが、昨今の日韓の不安定な政治情勢のため、来訪参加者が少なく、窓口の李麗麗氏より今年の訪問は中止して、来年にして欲しい旨の申し出がありましたので、英彦山と犬ヶ岳の交流登山と山国町「やすらぎの郷」での交流・懇親会は中止しました。

来年の計画はまだこれからの情勢で相談の運びとなりますが、せっかく積み上げてきた日韓岳人の交流の火種を、今後も息長く続けられるよう互いに頑張りたいたいものです。

新しい情報や新しい展開が生まれましたら皆さんにお知らせし、引き続き交流の絆をつないでいきたいと考えています。(飯田)

支部創立60周年記念誌

の原稿募集

募集原稿…山行報告、随筆、詩、短歌、俳句、川柳ほか山の思い出エピソードや写真記録、ほかいろんな投稿をお待ちしています。(おおむね1,000字以内)

提出先…阿南寿範

〒870-1113 大分市中判田 15-55
 TEL 097-597-7120 080-3187-2003

メール beca5844@oct-net.ne.jp

支部の記念として、皆様の積極的な投稿をお待ちしています

原稿締め切り…12月末まで

大分百山の執筆原稿締め切り

支部創立60周年記念で出版予定の、大分百山(三訂版)の執筆原稿の締め切りが迫っています。執筆担当者は期限までに原稿と写真を早めに編集担当へ送って下さるようお願いします

編集担当 浅野総一 097-537-7301
 080-6408-8000 asanos@pod-b.ne.jp

忘年登山と忘年会

のご案内

令和元年(2019年)の忘年山行と忘年会は下記の日程です。今年も皆様おなじみの登山家で日本山岳会前副会長の重廣恒夫さんがゲストで参加していただきます。一年の締めくくりで、一年で一番支部の仲間が集う場です。たくさんの皆様方の参加でにぎやかに楽しく今年を締めくくりましょう

忘年山行 12月21日(土) 傾山(1605m)・笠松山(1521.9m)

(見立谷〜九折越から両方ピストンで日帰り登山です)

12月22日(日) 天神原山(995.1m)

忘年会

場所 佐白セントラルホテル(宿白)

佐白市向島 1-111-33

電話 0972-22-8511

忘年会会場 同ホテル1F「ひょうたん」路

電話 0972-22-5800

日時 12月21日(土) 午後6時から

会費 13,000円

(22日の山行参加者の弁当お断り)

受付 午後5:30~

山行集合場所と時刻

12月21日(土) : 午前6時00分・大分駅上野の森集合

12月22日(日)の山行に当日の朝、現地参加の場合:

セントラルホテル 午前8時00分集合

参加申し込み: 21日山行・21日忘年会・22日山行の

三つに区分して、各々の参加について **12月6日(金)**まで

に、この支部報同封の用紙でごメールまたはFAXでご回答下さい。(電話不可)

年次晩餐会と一緒に参加しましょう

年一回全国の会員仲間が一堂に集う、日本山岳会最大のイベント行事です。毎年こぎやかに、華やかに、盛大に催されます。会員でない家族も同伴が可能となりました。みなさん一緒に参加しましょう。

月日…12月7日(土)

場所…東京・京王プラザホテル:本館5F

時刻…講演会等:13時から

晩餐会:18時から

会費…16,000円(一人)

受付開始・午後0時30分から
講演会・午後1:00~5:00
図書交換会ほか・午後2:00~5:00

晩餐会記念山行

日時・12月8日(日曜日) 三ツ峠山

☆晩餐会の案内状は会報「山」10月号に同封されます

☆参加申込み 個別に申し込むと席は無作為に指定されますので、支部で同じ席を希望の方は事務局へ申し込んで下さい。事務局で人数分の会費を一括振り込みし、同席を確保します。

支部報メール(電子版)受信のお願い

パソコンメール等で支部報の電子版(PDFファイル)を受信できる方を募っています。支部報の印刷経費および発送経費節減のためのご協力をお願いします。メールで受信できる方には印刷した支部報の郵送はいたしません。印刷物と同じ内容の支部報をPDFファイルで全紙面カラー版をお送りできます。

このたびの定期総会で規約改正があり、電子版受信者には支部年会費を500円削減して収めることができるようになりました。総会ですでに本年度会費を納められた人には500円をお返しします。

応諾できる方は下記のメールに「支部報電子版受信を応諾します」と明記のうえ、氏名をはっきり書いて送信してください。

応諾者には次回支部報以降、印刷した支部報はお送りせず、メール便で発送いたします。ご協力をよろしくお願いいたします。

応諾メール発信先 jackeikaku@antbbiq.jp

メールアドレスをお間違いにないようにお願いします。

第36回全国支部懇談会は宮崎支部で

第36回全国支部懇談会は、2019年度は宮崎支部で開催されます

近県支部の開催ですので、希望者はご遠慮なく申し込んで下さい。参加者は支部でまとめて申し込みすることになりますので、希望者は事務局まで申し出て下さい。

期日 2020年5月16日(土)17日(日)

会場及び宿泊 宮崎市青島「ANA ホリディ・イン・チゾート宮崎」

参加費 20,000円

記念山行 双石山(17日)

記念観光 日南海岸、鶴戸神社ほか

募集期間 2019年12月~2020年1月末

募 集

**支部創立60周年記念海外登山隊
隊員募集**

支部創立60周年を記念して、海外登山隊派遣を企画しています。挑戦してみたいとお思いの方は、絶好の機会ですので応募を検討してみてください。

実施期間・2020年9月~10月

行き先・ピサンピーク(6091m)・パル・アガリ山域

募集開始・9月



第5回支部役員会の開催案内

本年度第5回支部役員会を下記の通り開催しますので役員の方はご参集下さい

日時・12月13日(水) 18時より

場所・大分市「西路公民館」

- 議題
1. 支部創立60周年の準備
60周年記念誌発行準備
大分百山3訂番版発行準備
記念海外山行・国内山行等
記念式典と関連行事
 2. 第7期登山入門教室
 3. 忘年山行・忘年会
 4. その他

後記

- ・ 秋の深まるこの季節、今回から支部報の編集を文才の余りない私が事務局長の飯田氏から引き継ぐようになった。前々からこのことについて連絡は受けていたものの原稿が届き始めたのが10月半ば。編集ホームさえあれば、簡単にできるかと思われたが、発行日を3週間を過ぎ、悪戦苦闘中!
- ・ 個人文章の中には、それぞれの思いがあり、長文で表現する人や、写真なしの山行記録等あったりし、編集作業に多大な時間を要する。今後の会員・会友の水平展開を図るために、できるだけ多くの情報量を盛り込みたいと思います。ご協力お願い致します。
- ・ 今年は台風や集中豪雨で多くの水害が発生し、多くの人命が失われました。特に東日本では、広範囲で河川堤防の決壊が発生。多くの家屋が浸水。報道各社は40日過ぎようとしている今も、メインニュースにしているようです。災害は自分にはないと思わず、備えておきましょう。

(T・A)

公益社団法人日本山岳会東九州支部 東九州支部報 第87号

2019年(令和元年)10月25日発行

発行者 加藤英彦

編集者 阿南寿範

印刷所 佐伯印刷株式会社

発行所 事務局

〒874-0820 別府市原町5-1-4 飯田方

TEL・FAX 0977-21-3437

E-mail yamatomoki@ari.bbiq.jp



山溪

1968年創業の山溪が
あなたのアウトドアライフをサポートします。

山道具の
110番
開設中!

靴が合っていないのか、登山に行く度足が痛くなる…。リュックサックが肩にくい込む。テントが雨漏りする。道具の使い方がわからない…等々、弊社ご購入品にかかわらずご相談に応じます。

山溪

西日本最大級の品揃え!
since 1968
登山・キャンプ専門店

大分市生石1-3-1

GO ミ ナ サンサンサン

TEL 537-3333
FAX 537-3388

- 西大分「交番」前高崎団地入り口
- JR西大分駅より歩いて6分
- 10時～19時30分 ●火曜定休日

アルパインツアーは登山・トレッキングの専門旅行会社です。

※各種ツアーカタログをご請求下さい。『世界の山旅』『スイス・ハイキング』『ヨーロッパの山旅』『カナダの山旅』『北欧の山旅』『ヒマラヤ・トレッキング』『ニュージーランドの山旅』など。

アルパインツアー

検索

↑↑↑ホームページをご覧ください。アルパインツアーで検索。↑↑↑

国土交通大臣登録旅行業第490号/社団法人日本旅行業協会正会員 ©ボンド保証会員

アルパインツアーサービス株式会社

福岡営業所 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-2-8(セントラルビル5階)

福岡/☎092(715)1557 東京/☎03(3503)1911

大阪/☎06(6444)3033 名古屋/☎052(581)3211

札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4611(転送)

(株)りんゆう観光 広島/☎082(542)1660(転送)

HP <http://www.alpine-tour.com> e-mail info@alpine-tour.com

